北茨城民報
2005年8月14日
日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
43-0468(福田)
42-2462(鈴木)
毎週 日曜日 発行
お問合せは上記へ

安心と希望の茨城を

間宮たか子さんとごいっしょに

「明るい会」のつどいに250人

8月10日、安心と希望の茨城をごいっしょにと「明るい民主県政をめざす会」のつどいが開かれました。会場あふれる250人が参加。県知事候補の間宮たか子さんは、茨城の元気をしぼませてきた橋本知事とオール与党の政治に審判をくだし、一人ひとりを大切に、憲法を暮らしに生かす県政をめざす決意を表明しました。

各社の教科書を読み比べる

日立の大久保小学校で展示

今年は、4年に一度の中学校教科書採択の年です。北茨城市は日立市、高萩市とともに県内第1採択地区となっています。

採択の審議を前に、各地域で教科書展示がおこなわれています。当地区では、日立市立大久保小学校が会場となりました。

今年は来場者が多かったそうです。扶桑社の教科書の戦争美化の記述や、同社によるルール違反の問題など何度もマスコミでとりあげられたためでしょうか。

社会科(公民)の教科書を、基本的人権のテーマで見比べてみました。全部を詳細にみることはできませんでしたが、焦点ともなった扶桑社の教科書では、他の数社の教科書に掲載されている男女共同参画や子どもの権利条約などの記述がほとんどありません。

意見用紙に、次のように記してきました。（鈴木やす子）

「男女共同参画社会形成のうえで、まだまだ女性の政策決定への進出が少なく、女性が社会参加するための支援策も不十分。子どもの権利の認識も国際的にすすんでいるにも関わらず、それへの記述もないようでは、21世紀に生きるこどもたちに渡すべき教科書としてはふさわしくないのではないでしょうか」

選定の結論は、9月1日に発表されます。

核廃絶への熱いメッセージ

長崎から

原水禁大会に参加した北茨城原水協の斉藤さんが、長崎から熱いメッセージを寄せてくれました。

盛夏

皆様方には、お元気でお暮らしの事と思います。

私は、今日（七日）長崎に着き、明日、明後日と原水爆禁止世界大会に参加の予定であります。参加に際しましては、皆様方、多くの方々の御理解と御支援をたまわり厚く御礼申し上げます。

私の父親も軍人としてフィリッピンレイテ沖で戦死しておりますが、三〇〇万人といわれる太平洋戦争の日本人犠牲者、二〇万人以上といわれる広島、長崎の原爆犠牲者の悲劇を二度とくり返してはならないという思いは、日本人全ての悲願です。

広島型の原爆（15キロトン）の数倍、数十倍の威力を持つ核兵器を三万発も保有して、いざという時には使用するという現在の世界の在り方は「人類の生存発展」とは相入れません。

理屈ぬきに、核兵器は全て無くす、それ以外に解決は無いと思います。その実現のために、皆さんと共にがんばりたいと思います。

二〇〇五年八月　　北茨城原水協　斎藤寿夫

『アンネの日記』の作者、アンネ・フランクの形見として、父オットー・フランク氏にベルギーの園芸家から贈られたバラです。30年ほど前に日本にも送られ、いま全国に広められつつあります。

（日立市立大久保小学校の中庭で）